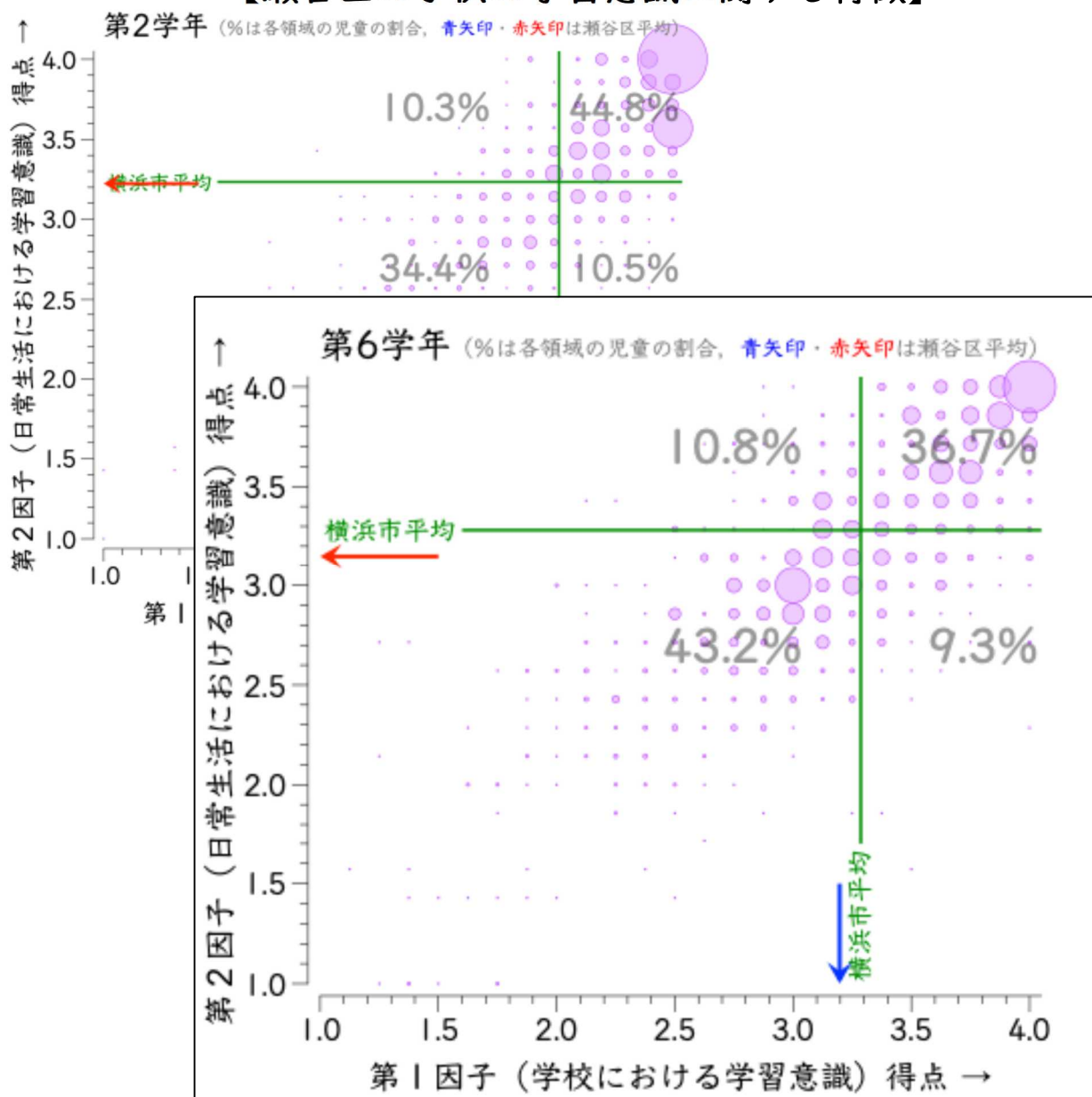


【瀬谷区の子供の学習意識に関する特徴】

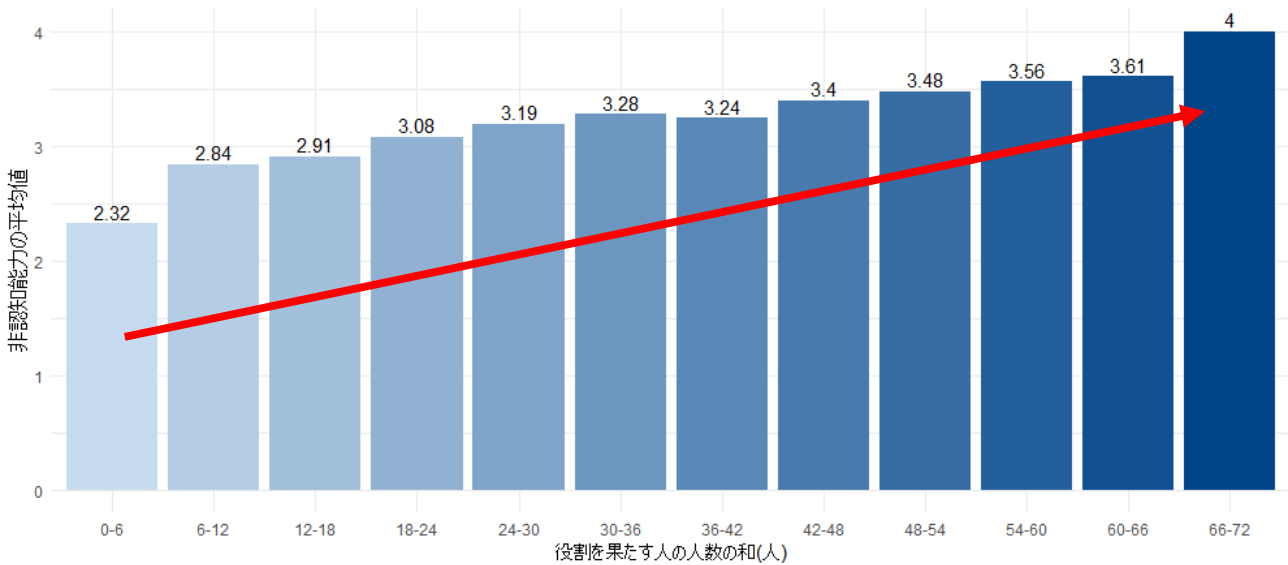


第2学年や第3学年では「学校における学習意識」と「日常生活における学習意識」共に、瀬谷区の子供の学習意識は横浜市全体と変わらないが、第4学年や第5学年になると、まず「日常生活における学習意識」が低下し、第6学年になると「学校における学習意識」も落ち込む傾向にあることが分かりました。また、放課後学習支援に参加している子供は、学年によらず学習意識が高く、2つの学習意識が共に横浜市全体の平均値を上回る子供の割合は、どの学年も瀬谷区全体と比べてより大きくなっていることが分かりました。

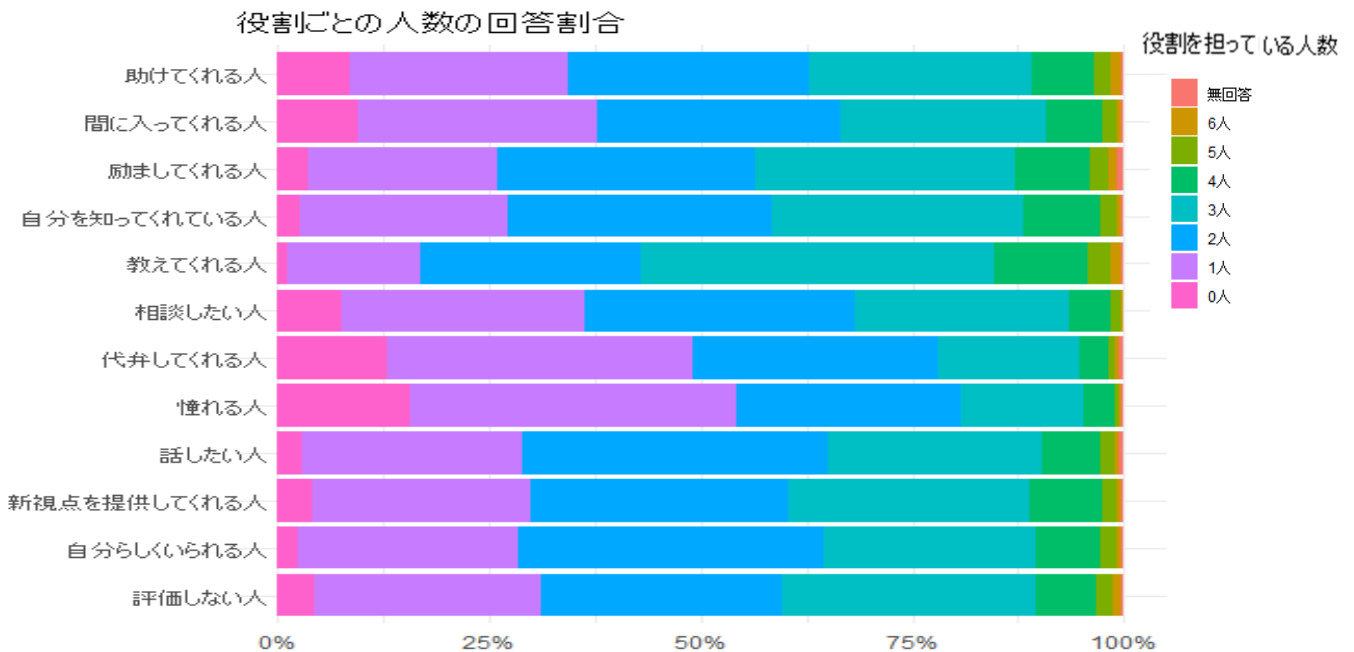
学習意識と学習時間の関係では「学校における学習意識」が、わずかに影響が大きく、学習意識が横浜市全体の平均値を超えるためには、学習時間が「30分～1時間」では不十分であり、それ以上の学習時間が必要なことが分かりました。

学力偏差値に対する影響は「日常生活における学習意識」の方が「学校における学習意識」よりもわずかに大きく、「学校における学習意識」と「日常生活における学習意識」が共に横浜市全体の平均値を超えれば、学力偏差値は50を超えることが分かりました。

【瀬谷区の子供の周りの人と学習意識に関する特徴】



周りの人が多くいる子供は、学習意識が高くなることが分かりました。この結果から、学習意識を高くするためには、多くの人と出会う機会を増やすことが大事であることが考えられます。例えば、放課後学習支援教室に参加をするとといった公共の放課後の居場所をフル活用することが挙げられます。多くの周りの人に出会うこと自体に意味があるのであれば、子供の食わず嫌いと同一ように、最初は無理矢理でも参加することをすすめることが大切と考えられます。ただし、次の調査結果に出てくる「困った時に相談にのってくれる人」がいないと子供はストレスがたまることになります。



「モデル(尊敬する人)」がいらない子供(ピンク色の部分)が多いことが分かりました。周りの人が多い子供ほど学習意識が高く、モデルとなる尊敬する人と出会っている確率が高いようです。コロナ禍を通して、多くの人との出会いや多世代交流、地域行事等に参加することが少なくなった一昨年より今年度は、多彩な地域行事等も復活してきています。できるだけ、声をかけて「周りの人」に関わる機会を増やすようにしましょう。放課後の居場所等に関わるスタッフや各家庭の保護者も「自らが得意とする」ことでの関わりから、モデルとなることが考えられます。職場を紹介することなども考えられます。

次に「代弁してくれる人」「間に入ってくれる人」「助けてくれる人」も少ない結果になっています。この役割こそ、子供のストレスを解消してくれる「周りの人」と考えられます。

「代弁してくれる人」は、例えば「はずかしくて思っていることを言い出せないときに、代わって伝えてくれそうな人」「だれかとけんかしたときなどに、間に入ってくれる(くれそうな)人」「あなたがしたことではないのに、あなたのせいにされてしまったときに、守ってくれそう・助けてくれそうな人」です。

さらに、「教えてくれる人」がいない子供は少ない一方、「悩みがあるとき相談したい人」がいない子供が多いことも特徴といえます。子供が何かを聞いてきたときだけ会話するのではなく、積極的に話しかけることや放課後学習支援教室や放課後の居場所で何気なく話す機会や環境をつくることを大切にしていきたいものです。

3 「みんなの計画・みんなで実現」

子供の学習意識は、「学校における学習意識」と「日常生活における学習意識」の2つから構成され、いずれも学習時間や学力とは関係があること、第2学年の子供の学習意識は横浜市全体と変わらないが、第4学年や第5学年になると、まず「日常生活における学習意識」が低下し、第6学年になると「学校における学習意識」も落ち込む傾向にあることが分かりました。

先に「日常生活における学習意識」が低下し、次に「学校における学習意識」も落ち込むことから、「日常生活における学習意識」の中で学習時間や学力と関係が深い学習意識項目を選び出し、具体的な指標とし、今後、皆さんと共に取り組んでいくこととしました。

自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集めたり話し合ったりしていますか

4 今後の取り組み

幼児は日常生活の遊びの中で自ら問いを見つけ解決しながら生きています。今回の調査を通して、子供はいつの頃からか自ら問うことをせず、周囲の状況に合わせるように生きる子供になってしまっているのではないかと考え、次の詩を今後の取り組みイメージとしました。

子は親の鏡

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
不安な気持ちで育つと、子どもも不安になる
「かわいそうな子だ」と言われて育つと、子どもは、みじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引込みじあんな子になる
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、
子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

ドロシー・ロー・ノルト&レイチャル・ハリス著 石井千春訳
「子どもが育つ魔法の言葉」CIEO 研究所(一九九九年)
巻頭より引用